

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990600157		
法人名	社会福祉法人 昂希会		
事業所名	グループホームひより		
所在地	栃木県日光市芹沼1739-41		
自己評価作成日	平成28年12月20日	評価結果市町村受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/09/">http://www.kaigokensaku.jp/09/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成29年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方との交流を深め、ご支援を頂けるように努めてきました。今年度は、地域・自治会のお祭り・イベントなどに数多くご招待頂き、楽しく参加させて頂きました。また、地域の事業所との交流も設けることができました。毎月の行事外出・外食、ボランティア活用、運営母体の行事参加等、外に出る機会を数多く持てるように実施してきました。日常生活においては、食事作りや掃除、買い物、年4回の消防訓練など、利用者と職員が一緒に行うことで、生きがいを感じて頂き、理念でもある、穏やかな笑顔あふれる暮らしを築けるように努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・事業所は自治会に加入している。また管理者は、自治会長などと連携して少しでも事業所が地域に認知してもらえるように努力している。
- ・入居者一人ひとりの個性や特技、趣味などの把握に努め、日々の生活に入居者のやりたいことが発揮できるように支援している。
- ・食材の買い物や近所のレストランに出掛けたりと、月1回の外出支援に取り組んでいる。天候が良いときには、ドライブや散歩を行い、入居者の気分転換を図っている。
- ・感染症や衛生面などに配慮し、キッチン周りやトイレ、洗面台など細かい部分まで清掃が行き届いており、常に清潔さが保たれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で作成した理念を、職員が認識できる位置に掲げ、意識を持って実践に繋げている。	理念は開設当初の職員で話し合って作ったものである。職員が利用者の生活のケアに迷ったときは、理念に立ち返って考えるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会、地区福祉協議会、児童館の行事参加の招待を頂き、交流を深めることが出来ている。地区にある支援事業所との交流もしている。	自治会に入り、管理者自ら積極的に地域に出向いて関係作りをしている。今までに社会福祉協議会主催の福祉祭りに入居者と参加したり、児童館の運動会やお遊戯会に見に行ったりと地域との交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には、自治会長と民生委員に出席頂いているので、その都度、報告と支援をお願いしたり、広報紙を作成して送っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当者、自治会長、民生委員、家族代表の出席を頂き、暮らしぶりや行事外出・参加報告、事故・ヒヤリの報告をし、話し合いや意見を書面化し、職員間でも共有しながら、サービス向上に活かしている。	会議は、参加者から意見が出やすいような話題を設定している。また、事業所のヒヤリハットや事故を報告し、現在の状況も参加へ話している。民生委員や自治会長の方には地域の情勢などを話してもらい、家族代表には事業所への意見や要望等を貰っている。	現在は限られた参加者になっているので、地域に住む人たちの参加を募り、より活発な会議となるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	EメールやFAXにて情報を確認。また、運営推進会議に出席して頂いたり、必要に応じて相談をしたり、アドバイスを頂いている。	事業所で起こった事故などは速やかに市に報告し、今後の対応策などのアドバイスを貰っている。制度上の変更なども確認する機会もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束委員会に参加し、議事録にて全職員が周知している。ホームにおいては拘束しないための話し合いを設けている。	当法人では定期的な身体拘束に関する会議が開かれており、必ず事業所の代表者が出席している。出席した職員が事業所職員に伝え、拘束をしないケアに取り組んでいる。行く場所も告げず戸外に行く入居者には、無理に呼び止めたり制止したりはせず、傾聴して職員が付き添うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日光市高齢者虐待対応マニュアルを全職員既読し、日々の中で虐待が行われないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加に努めたり、必要性に応じて支援できるように取り組んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族様の不安や疑問を聞き出しながら、説明をし、納得の上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議における家族様代表者の出席や、来所時、意見・要望を頂ける関係性に努めている。相談・苦情BOXを設置している。	入居者については普段の生活の中で意見を聞き、それをケアの中に取り入れている。家族には面会時や電話連絡をするときに意見や要望を伺っている。例として家族からの要望により、行事予定表を玄関に掲示することとなる。	今後、さらに入居者・家族から意見や要望を表せる機会を設けていこう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や連絡ノート、カンファレンス、個別面談を行い、意見など聞く機会を設けている。	月1回の会議では職員が司会・記録を交代で行っている。今までに勤務シフトの時間帯などを職員で話し合っ変更したり、入居者の安全面を考慮した居室のベランダ設置などがる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の条件、環境など勤務可能状況を把握しながら、勤務作成に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合った、内部・外部研修に参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域内にある支援事業所の方との交流を持ち、訪問させて頂き、演奏や踊りにも参加させてもらい、職員のサービス意欲が高められる機会となった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み・契約時に本人、家族様より困ったこと、不安なこと、要望を聞きうけながら安心して過ごしてもらえるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様には、申し込み・契約時にグループホームでのサービス内容をなどを説明し、不安や要望を聞きながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人なりのグループホームで出来る支援を見極め、他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、食卓を囲む、食材の買い物、外食、朝の掃除・洗濯など、一緒に行うことで、暮らしを共有する関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係を築けるように、来訪時や電話連絡にて状況を伝え、訴え事や問題が生じた時には一緒に考えて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来所された時は、次回も訪問して下さるような対応をしている。馴染みの方と出会えるような場所に出かけたりしている。	友人などの来訪もあり、馴染みの人との関係づくりを大切にしている。家族の対応により、馴染みの美容室に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席の配置や、作業時の声掛けなど、利用者同士の関わりや関係性を配慮しながら支援するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、必要な相談や支援は出来るよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望、意向の把握に努め、困難な場合は仕草や行動、傾聴をしながら職員間で話し合ったりし、検討している。	入居者は自分の気持ちや意思を伝えられる方が多く、コミュニケーションをとっていく中で些細な発言も聞き取るようにしている。また、個人の趣味や興味活動、職業などに着目して雑巾縫いや畑の草むしりや収穫、花木の手入れなど個人それぞれの思いや意向を生活の場に取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族様から生活歴、環境、暮らし方などを伺いながらアセスメントシートを作成し、新たな情報が有れば追加したり、職員間で話し合い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状態、有する力を見極めながら、その人なりに出来る事を一緒に見つけられるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族様の要望・意見を取り入れながら、カンファレンス又は必要に応じてその都度、関係者を含めた話し合いをしながら、介護計画を作成している。	介護計画は介護支援専門員が作成しているが、作成前には職員から入居者の情報を得て、現状に即したチームでの計画づくりをしている。また、アセスメントシートや申し送りノートには、起きた出来事のほかに本人の言動や職員がとった行動などを細かく記載してケアに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の際は行動だけでなく、状況や言葉・仕草なども記録している。また記録入力以外にも、アセスメントシートに書き込みをしたり、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画外での散歩やドライブ、私物の買い物、食事や喫茶に出掛けたり、野菜を育て収穫を楽しんだり、他の事業所との交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのつながりが出来つつあり、自治会や地域福祉協議会、児童館、支援事業所等の招待行事に参加でき、地域での暮らしを楽しむことが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は基本、家族様対応であるが、ほとんどの方が協力医に変更しており、月1回の協力医の往診や定期検査により、健康状態を確認している。適切な受診が受けられるように支援している。	基本的にかかりつけ医の受診は、家族が対応している。往診の医師が入居者の健康状態を確認して、必要に応じて専門医の受診へとつなげている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療加算を外しているが、看護師有資格者がおりオンコール対応となっている。協力医の定期健診・回診において状態の変化・異常などを相談出来ており、必要に応じて受診可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のお見舞いはもちろん、退院に向けての病院関係者との情報交換を行ってきた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様と話し合いながら、本人様の病状や身体状況を職員間で共有し、支援に取り組んできた。また、特別養護老人ホームへの入所支援を行った。	重度の方や入退院を繰り返す方でも可能な限りは、事業所で見ていく体制をとっている。常時医療面の負担が大きい方は、今後のケアを話し合い必要な機関へとつなげるようにしている。看取りについては、事前に事業所でできる最大限の支援を本人や家族に伝えて対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は、看護師作成の書面で、随時確認できるようになっている。救命講習時に訓練を受けたが、定期的な訓練は実行できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の訓練を実施した。災害時、近くの学校に避難する際の名札を作成。災害時に備えた飲料水、食料の準備。協力体制として自治会での応援要請が出るように連絡体制が出来ている。	年2回の総合訓練と自主訓練を行っており、消防や地域の人などの意見を取り入れて実行している。意見の中から、民生委員を連絡網に入れたり、市の防災メールの活用や非常用持ち出しバックを準備するなどの取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	呼び方、言葉使い等、個人を尊重した対応をに努めている。申し送りや職員間での会話においても、入居者の名前ではなく、部屋番号を使っている。	個人の尊重と親しみやすさに配慮し、名前を呼ぶときは下の名前で呼ぶように全職員が統一している。またプライバシーに関わる相談では、居室で話を聞くなどの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で意思確認したり、表情や行動を観察しながら自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースと過ごし方の把握に努め、希望を聞き出しながら支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は家族様に、季節ごとの入れ替えをお願いしている。更衣・整容が困難な方には必要に応じて支援をしている。月1回の理容の出張サービスを利用したり、家族様となじみの店に出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備として野菜を切ったり、盛り付けを一緒に行う。献立においては、旬の食材を利用したり、イベント・季節の献立を提供している。	事業所で調理する食材の購入は、入居者と一緒に行っている。献立は、季節のものを取り入れ飽きないような工夫をしている。その他、入居者ができる配膳や盛り付けなどの役割を楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いや量の把握に努め、水分はコップを計量しておき、一日の水分量を記録している。希望により、毎日納豆を追加して食べている方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けして口腔ケアを行っている。洗浄剤を使用している方等、必要に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄シートを活用しながら、誘導をしたり、必要に応じてプライバシーを守りながら支援をしている。	トイレでの排泄習慣をつくり、失禁が少なくなるように定期的な誘導を行っている。排泄支援が必要な方には、職員が声掛けして排泄できるようにしている。また羞恥心が強い人には、同性介助などの対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の乳製品の提供や毎朝の体操を行っている。排便チェック表、排便の状態を確認しながら、必要に応じて服薬調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2～3回の提供をしている。個々の希望タイミングなどを考慮して、午前、午後の提供をしている。	入居者は午前と午後に入浴ができ、好きなほうを選択できるようになっている。また窓から外の景色を楽しめるようにしたり、ラジカセで好きな音楽を聞きながら入浴をするなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり、起床・入床時間は異なっているので、それに応じた支援をしている。自室の空調調整も希望に応じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を確認することで理解をする。服薬においてはダブルチェックをし、服薬支援をしている。症状の変化が見られれば、協力医と相談しながら、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、レクリエーション、外出、買い物、外食や雑巾縫い、物づくりなどの支援を行い、掃除・洗濯・食事作りにおいては各々が役割に満足できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩、畑・花作り、室外でのお茶、外食の機会を設けたり、月1回の行事外出、母体施設や地域の行事参加、家族様との外出にと、外へ出掛けられるように支援をしている。	日頃から近所を散歩する支援をしている。入居者のリクエストで近所の定食屋で食事をするなどの支援をしている。開所時から毎月1回の外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持することは困難であるが、個々にお金をお預かりしていることを伝え、好みの洋服や雑貨、嗜好品に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参の方には、番号の検索の支援をしたり、希望があれば、電話の取次ぎを行う。		
52	(19)	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような玄関、リビングの空間作り。不快な思いをさせないように整理整頓、朝と夜勤による掃除や、空調管理に努め、居心地よく過ごしていただけるように心がけている。	廊下から食堂まで太陽の光が入るつくりとなっており、暖かさや温もりを感じることができる。リビングの前には、行事の写真や外出先の写真が飾ってあるため、誰でも目にすることが出来る。共用スペースは清潔さと衛生面に気を付け、掃除が徹底されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、自席以外にも過ごせる場を作り、新聞を読んだり、ひなたぼっこをされたりと活用されている。利用者同士、自室に招き合って談話していることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具類、時計、室温計、加湿器を備えている。好みの装飾品や仏壇を持込まれたりして、個々の居住空間で過ごしてもらえるように、本人・家族様と相談しながら工夫をしている。	壁紙、カーテンは居室により色合いを変更した造りとなっている。入居者の性格などに合わせて、気になる物は避け、本人にとって居心地よく過ごせる居室を本人、家族、職員と一緒に考えている。	入居者が居室から安全かつ気軽に外に出て、気分転換ができるような設備を期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室においては、本人・家族様と相談しながら、ベッドの高さ、洗面周りの環境を整えている。料理や洗濯ものを一緒に出来るよう、工夫をしている。		